

佑啓

ゆうけい

発行者

社会福祉法人 佑啓会

理事長 里見 吉英

〒290-0265

千葉県市原市今富 1110-1

TEL 0436-36-7611

FAX 0436-36-7612

編集者 広報委員会

桜島、本日も静かなり

鹿兒島紀行（其の二）

里見 吉英

講演の依頼で鹿兒島に飛んだ。初日は施設見学の後、夜の酒席まで設けていただいた。

西遊記ならぬ南遊記二日目、我々は霧島市を目指す。時折車窓に現れる桜島は未だ静かだ。猪八戒と沙悟浄は前夜の宴の後遺症がありそうだが、孫悟空は若く元気なので、運転手である。

地域の一大企業が経営するホテルが会場であり、豪華の一言に尽きる。講演は午後一番のプログラムであるが、実はこの時間帯を引き受けるのは苦手だ。ご推察のとおり、食後の睡魔が会場を襲い、

あちらこちらで船を漕ぎはじめる。それだけならまだしも時にイビキまで聞こえてくると悲しくなってしまう。眠気を忘れさせるような話を心がけると、つい口がすべってしまう、後でお叱りを受けたりする。

この研修会の参加者は施設職員と施設利用者のご家族が入り混じっており、講演の後には両者によるグループ討議も行われるという

う、なかなか珍しい形態である。措置から契約に移行し、所謂「対等な立場」と言われるようになってきたが、実態はそうではないだろう。

選べるほどのサービスがなければ、やはり利用する側は弱者という構図から抜け出せていない。物言わぬ利用者に物言えぬ家族、と職員の感性は千差万別である。

そんな両者に話をするのは難しい。あちらを立てればこちらが立たず・・になってはいけない。私の話が後の討議の材料になっていただければ幸いだ、激辛スパイスになっては大変だ。

職員と保護者の健全な関係は我慢が二割で本音が八割くらいが丁度よいのではと考えている。お互いが十割でぶつかってしまうとかえって上手くいかない。これが「利用者も家族も職員も楽しく」という私の持論につながる。職員も楽しくなければ利用者は楽しくない。家族が楽しくなければ利用

者も楽しくない。どうすれば三者が楽しくなるかというのは日ごろから三者で考える必要がある。

しかし、最近は何言いつぎる家族が増えていのも事実だ。産婦人科しかり小児科しかり、頑張つてもすぐに訴えられてしまい、責任が重くなって若者に人気がなくなる。実は障害者福祉も同様になっている。決して給料が安いとかではない。不況の世の中でも福祉の世界は給料は下がらないのだ。また、最近の若者はそういった抗体がないからすぐに折れやすく、特に福祉に来る若者は線が細い。職員の出入りが激しい施設というのは、さまざまな要因もあるが、

そしてご家族の方も職員を上手にオダてて使ってほしい。腹が立つても、ありがとう、その一言で職員はもっとやる気になれる。「いつもすいません」と言ってもらうと、ちよつと良い気分の仕事が出来るようになる。それで現場で本当に困るようなことがあったら、施設長さんにそーっと、優しく耳打ちしてくれればいい。

「支援させていただく、支えていただく」
こういう気持ち両者とも必要だと思う。



九十分の講演は無事に終わり、皆さん熱心に耳を傾けてくださった。さすがにこの後のグループ討議には参加せず、夕方からの懇親会にはご招待いただいたので、束の間、お供と出かけることとした。

道中、桜島ではなく新燃岳を仰ぎながら向かった先は霧島神社。参道の杉並木からして荘厳な佇まいだ。日本で初めて新婚旅行をした竜馬とお龍も訪れたと記されている。次に足元に鎮座する石の説明文を読む。さざれ石」と記されたその石は、君が代のそれだ。なるほどなどと感心していると、一人が「あれ？何年か前に職員旅行で来ませんでした？ここ・・」。遠い記憶を手繰り寄せると、そういうもする・・残る二人も同様に曖昧な記憶である。



温泉、神社
仏閣、その類は例年の職員旅行でかなり巡った。印象薄いといつては罰当たりだが、「職員旅行は一泊で行う大宴会」「朝から飲める楽しい旅行」という職員も多く（決して私の本意ではない）、名所旧跡は足早に通り返してしまふ。ましてや屋から酔っ払っていれば・・。ならば今年も佑啓会も二十周年、記念に南の島へリゾートに行つてみようかと考える。

三人と別れ、会場に戻り、懇親会へ参加させていただくと会場は和やかな雰囲気であった。いろいろな立場の方から、たくさん声を掛けて頂き、楽しいひとときを過ごす事が出来た。それにしても、参加者、特にご家族と見受けられる方が多い。鹿兒島県は種子島をはじめ離島が多く、そちらから参

加される方もこのような機会を楽しみにされているとのこと。もちろん意識や関心の高さがあつたればこそであるが、このような空気に触れると、どちらが弱者だナンドというのは釈迦に説法であつたかと思う。

「施設を出て街で暮らそう」
いつからか入所施設は批判の対象になった。現法の改正当初案には「入所」という体系すらなかった。我々の働きかけで何とか盛り込まれたが、今度は「権利擁護」という項目が付いてきた。まるで入所施設と権利侵害を結び付けられているようで悔しさもある。地域福祉と施設福祉が対極のように捉えている方もおられるが、施設が地域の一つの機能としてその存在意義を発揮すれば良いではないか。誰かの支えがなければ不安な、本人・ご家族が安心して過ごせる、託せる存在が必要であり、口当たりが良い綺麗ごとや目に見える形ではない。入所施設からグループホーム、ケアホームに次々移行しても、入所施設は常に一杯で、止む無く“ショートステイ”とは名ばかりの長期滞在者が後を絶たない現実がある。

小さくても支えになれば：
そんな思いでスタートし、二十年。さざれ石はまだまだ歳とはならずとも、徐々に大きくなってきている。私がお題目を掲げてそれを形にしたわけではない。現実を直視し、求められるままに事業を展開していった結果にすぎない。「この人たちの人権は」とか「この人たちのために」などと声高に叫ぶ施設でも、蓋を開けると落胆させられる施設は多い。現実を、本人を置き去りにしてしまつては

いけない。

「本人を真ん中」

施設、家族、関係機関、地域が一緒に議論できれば、どこで暮らそうが幸せなんじゃないかと思う。

肅々と蒼生すがごとく、地味に地道に。私の信念である。（と話すと、「お前がいちばんケバいい！」と協会の仲間言われてしまうのは不本意である）

懇親会の福引大会では賞品まで当たつてしまい、恐縮してしまふ。まさかカラオケ大会まで参加するわけにもいかず、退席させていただく。

♪人生いろいろ♪

迎えにきた三人と合流する。相変わらず運転手は孫悟空である。可哀そうに。どうせ猪八戒と沙悟浄は喰わせろ吞ませろと言つたに違いない。ならばとホテルに戻つて改めて悟空も含めて飲み直す。今日は良く喋つたので喉が渇いた。最近お気に入りハイボールが喉を潤してくれる。

明日は、薩摩川内へ向かい、孫悟空の実家のミカン畑を見学する予定である。緊張からも開放され、熟睡。

目覚めた窓には今日も沈黙の桜島が貼りついていていた。

【つづく】
(理事長)

さながら家政婦

中村 君子

我が家の真治は未だに鍵っ子！あの年でこんな表現は可笑しいかな。しかしながら、仕事を待つ親の子は当然かもしれない。ともあれ作業所から帰宅すると玄関に靴を置いたまますぐに裏の洗濯物を取り込みます。丁寧に畳んで、それぞれ部屋に運ぶ。その後シャッターや戸を閉め、秋冬であれば部屋の明かりを点けてくれる。お陰で私はいつも明かりの点いた家に帰れる幸せ。



やがて、やれやれと自室に座りお菓子をつまみながら何語なのか判断出来ない字を書きつづる。書いては自分で讀き、とてつもない字数を書き終えた紙。それらがテーブルに一紙みだれも無く重ねられた光景にいったい何を考え、どんな心理で書いているのか不思議でならない。自分なりに何かが有るのだらうが、長い間変わることなく続いている。

しばらくして、定刻午後七時二十分。決まって愛犬ミンクのお散歩。以前は早い時間に行っていたのですが、ワンちゃんの散歩ラッシュと重なり、他の犬と吠えあ

い・・・、相手の方が軽傷ながら怪我をした事があります。こんな子に散歩は無理と中傷があったのは事実です。だからといって止めてしまつたらせっかくの自主性を摘んでしまう事になる。ところが真治の状況判断は、時間をずらしただけです。その対応は大したものではない。しかし、悩みは散歩の時間の長いこと・・・。なんと一時間もかかりません。時々様子をみに行くと途中でいつもの自己陶醉中。絶対に他の事を聞き入れない自分の世界に陥っている。じっと待っているミンクはたまつたもんではないだらうが、ご主人様が真治では、ままならない。



そして、休日の日課がこれまたすごい。天気に関係なく寝具カバーを全部取り替え、大量の洗濯物を出す。さすがに洗濯機は触ることはありませんが、洗濯物干しが大好きなのです。濃色の洋服は底に、その他は外にきちっと干してくれます。全て私を手本にしているのだから、変なやり方は見せられません。その後、部屋全部に掃除機をかけ更にダスキンかけ、更に更にペーパーモップで床拭き、結構な広さですが、嫌がることなく行なつてくれます。そこに昨年あたりからトイレのお掃除も加わりました。作業所で建物の清掃会社の実習をした経験でしっかりと身に付いたのでしょうか。やがて午前中の部は終わります。ゆつたりとテレビを見ながらのブランコ。本人には、満足しきつた至福の時間なのかもしれません。しかし、真治の手伝いはまだ終わらせません。アイロンがけです。一週間分の自

分のワイシャツ、ハンカチ等々全てにかけます。そして日課はこれにて終了。いろいろな子のケースがありますが、何事も恐くてやらせないと思うのが普通でしようか、私は熱いものの熱さを、包丁も切れる恐さを、全て体験させ、失敗したら次に上手く出来るように、何より存在を認めてあげました。いったい親はその時、何をしているの？疑問を持たれる方もいらっしゃると思います。私といえば、庭の草取り、家庭菜園の手入れ等々の外仕事を徹しているのです。広い敷地を持て余し、寸暇を惜しんで草取りをした結果、右手首の腱鞘炎。患いながらも、綺麗になった庭や菜園を眺める心地よい時間。真治の手伝いがあればこそです。

例えば、十年前平穏な日常生活を一時にして奪われ、何の選択も出来ないアクシデントに悲しみを噛みしめ、声なき涙を流しながら作業をしていた事。更には大好きだった祖母との別れ。いつも遺影をじっと眺めては手を合わせていた事。試練とも言ふべき全てを乗り越えた今の真治にエールを送りたい。

親は体力も気力も以前とは比べ物にならないが、力むことなく助け合い、よく働きよく遊び、楽しんで何より健康で有りたい。毎朝生き生きとバス停に向かう後姿に安堵とあの満面の笑みを毎日見たがために、母も頑張りますぞ。真治ありがとう。でも鍵っ子で、ゴメン！

(五井福祉作業所 中村 真治 母)

一年を振り返って
〜 静風荘より〜

田村 考盛

連日厳しい暑さが続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。この「佐啓」が発行されるのを楽しみに待っていた私。今回も理事長の鹿兒島紀行其二が早く読みたいなあ、と呑気な事を考えていた矢先（決してヨイシヨではありません）にこれを書くことに。分り辛い文章かもしれませんが、最後まで読んでいただければ幸いです。

私はふる里学舎静風荘で今年二年目を迎えました。就職してから一年間は驚く程早く過ぎ、日々の前の事をこなすだけで精一杯だった印象がありますが、改めて昨年度を振り返ってみますと・・・あれ？「一年を振り返って」という題で二ヶ月前に同期のI森くんが先に書いてなかったつけ・・・？そんな事は関係ありません。

さて、この一年間ですが、静風荘での仕事以外にも、法人内の様々な行事に参加し、多くの貴重な経験をさせて頂きました。まず、印象的だったのは法人内環境整備です。これは、佐啓会が運営する事業所の職員が、ふる里学舎に一同に集まり、山の草刈り等の環境整備を行うものです。東京ドーム4個分の広さを綺麗に維持する事は容易ではなく、先輩職員は施設職員と言うより、専門の業者という感じで、「親方」と言っても良い程作業着が似合っている先輩職員もおります。我々新人職員は、ジ

ヤージ姿で、ひ弱な感じで付いていくのがやっとでした。しかし、静風荘の先輩職員からは、「静風荘の職員は駄目だな、なんて言われるような仕事をするなよ！」と事前に言われていただけに、もう必死に身体を動かしたのを覚えています。偉い所に就職したなあ、と言うのが正直な感想でした。

ふる里学舎は、皆様ご存知のように飲み会も多く、その都度、先輩や幹部の方々より有難いお言葉を賜っているのですが、お酒の弱い私の記憶に残っているのは飲み会後の皆が寝静まった時間帯に、トイレの水に映る自分の顔とにらめっこしている姿ばかりなのであります。静風荘とふる里学舎市原の交流会と称した飲み会では、単なる裸祭りで終わったような気がしなくてもあり

ません。そんな事が出来るのも事業所を越えた繋がりがあるからこそなのだ、自分に言い聞かせた事も。



こんな事ばかり書いてると怒られそうなので、静風荘のことを書きます。この一年間は本当に失敗ばかりで、特に利用者さんには迷惑をかけ続けたと思います。介助技術の基礎もままならず、精神的にも未熟な私に対して抱く不安は、相当なものだったと思います。そんな私に「いつもありがとう」と笑って言って下さる方達ばかりなので、その言葉にかなり甘えてきたような気がします。しかし、いつまでも甘えているわけにはいきません。それは先輩達と同じ想いで、少しでも良い介助を目指し、利用者さんに喜んでもらうように

自主的に勤務後に介護研修を行っています。利用者さんの気持ちに少しでも近付こうと、介助される側の立場を実際に体験する事もあります。同期や先輩達と意見を交わしながらあえてでもない、こうでもないという話し合える雰囲気も大切にしたいと思います。

静風荘を利用されている方は、全てを我々に話してくれるわけにはありません。病気や事故等で障害を負った方々の複雑な思いを理解するには、時間も要するでしょうし、時間をかけても理解出来ない部分も多々ある事でしよう。私が、利用者さんから求められている事は何なのか、自問自答する日々であり、本当は、まだ一歩も踏み出せてないのではないかと、と思う事もあります。

何はともあれ、里見理事長が常々仰る「支援させて頂く」という真摯な姿勢を忘れず、上司や先輩・同期や後輩に助けってもらいながら、前を向いて自分自身がしっかりと生きる事が何よりもまず、大切なのだと思っています。まだまだ暑い日が続きますが、皆様お体には気を付けてお過ごし下さい。

(静風荘 支援員)

編集後記



ロンドンオリンピックに甲子園と連日続くスポーツの熱戦。辛い練習に耐え、一生懸命戦う選手達の姿を見ると、スポーツ大好き人間の私も、自然と佐啓作成に力が入ります。こうして出来た佐啓第81号を残暑厳しい市原よりお届けします。

越川 直人